

芸術科（書道Ⅰ）学習指導案

指導者 ○○ ○○

- 1 履修単位数 ○単位
2 実施日時 令和○年○月○日(○) 第○時限
3 学 級 ○ HR(○名)
4 使用教科書 書Ⅰ(光村図書)
5 単元(題材)名 生活の中の書
6 単元設定の理由

(1) 生徒観

○○科 名で構成された本講座は、真面目で素直な生徒が多く、書くことが好きで、熱心に作品制作に取り組んでいる。一方で、情報機器等の普及により、暮らしの中で生徒が毛筆等を持って文字を書く機会も、実際に筆によって書かれた文字を目にする機会も少なくなっている。

このことから、改めて暮らしの中で見られる毛筆をはじめとした手書き文字について見直し、手書き文字が生活や社会においてどのような役割を果たしているのかについて考察することを通して、書のよさや魅力について考えさせたい。

(2) 教材観

本単元では、生徒自らが暮らしの中の様々な場所で撮影してきた文字を教材として活用する。その中には、直接筆で書かれたもの以外に、パソコンで用いられるフォント等の筆文字を模してデザインされた書体等も、ここでは広い意味での書と捉えて授業を展開する。暮らしの中にある豊かな文字文化に触れながら、書の表現の多様性や豊かさに気付かせることが目標である。

(3) 指導観

暮らしの中で見つけた文字について、自らの書の見方・感じ方を働かせてながら考察し、考えを示させる。また、タブレットで Microsoft Teams を活用し、教材や互いの考えを視覚的に共有しながら、生徒の深い考察を促す。また、生徒同士の対話を重視し、互いの考えを聞いたり共有したりすることで多面的・多角的な視点から自己の考えを広げさせたい。

7 単元の目標

- (1)・目的や用途に即して効果的な表現の技能を身に付ける。
・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。
(2)創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
(3)書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値等について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[表現] 目的や用途に即して効果的な表現をするための技能を身に付け、表している。 [鑑賞] 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。	[鑑賞] 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	[鑑賞] 書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値等について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

9 指導と評価の計画（全3時間）

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (2時間) 本時2時間目	・ スマホで撮影した画像を、クラウドサービス(Classi)を使ってタブレットに移動し、パワーポイントに整理して、Microsoft Teams に投稿する。	[思考・判断・表現] ICT 成果物

	・撮影した文字について発表を行い、手書き文字が生活や社会においてどのような役割を果たしているのかについて考察し、話し合う。	〔主体に学習に取り組む態度〕 活動の様子
第2次 (1時間)	・目的や用途に即した適切な形式や表し方があることを知り、「年賀状」「のし袋」「命名札」を書く。	〔知識・技能〕 作品 〔主体に学習に取り組む態度〕 活動の様子

10 本時の目標

手書き文字が生活や社会において、どのような意義や役割を果たしているのかについて、自分の書の見方・感じ方をもって表現することができる。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の方法							
			観活動の様子			ICT 成果物				
			ワークシート			作品				
			知識・技能			思考 判断 表現		主体的 に学習 に取り組む 態度		
			知 表	知 鑑	技	思 表	思 鑑	態 表	態 鑑	
導入 5分	・ 本時の目標を確認する。 ・ タブレットを起動し、Microsoft Teams に投稿した自分のプレゼンを開く。	・ 作成したプレゼンを確認させ、発表の準備をする。								
展開 40分	・ プレゼンの内容を発表する。 ・ ペアになって、改めて互いの発表について質問したり意見交換をしたりしたのち、全体で共有する。	・ 発表者のプレゼンを開き、画像をよく観察するよう指示する。 ・ 自分なりの書の見方・感じ方を働かせながら、表現効果等について話し合うよう促す。 ・ 必要に応じて、生徒に補足説明を促したり、他の生徒の意見を聞いたりしながら、考えを深められるよう導く。		観		I	I		観	
	・ 発表の内容以外で、生活や社会の中で筆が用いられている場面を考え、発表する。	・ 教科書にヒントがあることを伝える。 ・ 筆による方法が選ばれている理由や意義を考えさせる。							観	
まとめ 5分	・ 本時のまとめをワークシートに記入する。	・ 本時の学習を振り返り、手書き文字が生活や社会において、どのような意義や役割を果たしているのかについて、もう一度自分の考えをまとめさせる。					ワ		ワ	

12 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	・他の生徒の意見を参考にさせながら、暮らしの中での手書き文字の効用について、考えをまとめさせる。